

重点施策点検・評価表

2-1

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造		
重点施策			
1	安定した学校生活の中で、心豊かでたくましい人間力を培う指導に努める		担当課(館)
	① 学校訪問指導の実施		学校教育課
	活動内容	学校の実態を十分把握し、限られた回数の中で、焦点を絞った的確な指導・助言を行う。また、諸検査の結果については、各学校が活用しやすいような形にまとめ提供する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 学校訪問の際には、事前に学校経営計画や学習指導要領をよく理解し、その学校の実態を十分に把握したうえで、研究の視点に沿った指導助言を行うことができた。また、諸検査については、県平均を100とした指数で、市の平均値や各校の状況を知らせることができた。	
	課題等	指導に関する研鑽を積み、より現場の教員の指導に生かせるような助言を行いたい。また、諸検査の結果をできるだけ早く学校に伝えるようにしたい。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	現場を知るという思いで学校訪問を行っていてもよい。現場の声を収集する、子どもを知ることは大切なので、今後も継続してほしい。 学校が常に新鮮な気持ちで学校訪問をうけられるよう、子どもの状況をしっかり把握した適切な指導を継続し、ますます充実した訪問にしていってほしい。	
	② いじめ・不登校対策事業の実施		学校教育課
	活動内容	いじめ・不登校に関する調査を引き続ききめ細やかに実施し、分析した結果を活用しながら、問題行動の改善を図る。 スクールカウンセラー、心の教育相談員を有効に活用しながら、すべての小・中学校において相談活動を実施し、いじめ・不登校対策を充実させる。 いじめ・不登校対策委員会の機能を生かし、大学生ボランティア等を活用しながら、福祉事務所、少年相談センター、おおとり教室と連携しながら「子ども相談会」「ふれあいお楽しみ会」の充実を図る。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) いじめに関しては、アンケートを実施し、実態を把握したうえで解消状況を確認することができた。また、不登校についても毎月の欠席状況から心配な生徒について三者機関で協議をしながら改善を図った。ふれあい楽しみ会では、学生ボランティアの協力を得て、児童生徒が楽しみながら活動できた。	
	課題等	不登校の人数を少なくできるよう学校訪問の際には、児童生徒の自己有用感を高められるような指導助言を行っていききたい。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	いじめの質は時代によって変わっていくが、いつの時代でもきめ細かい対応が必要である。現在の市教委は物事を客観的にとらえ、適切に対応している。 おおとり教室の有効活用にも、子どもたちへの対応の充実がみられる。		

重点施策点検・評価表

2-2

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造		
重点施策			
2	自ら学ぶ意欲と態度を身に付けた子どもをはぐくみ、更なる学力向上に努める		担当課(館)
	① 「第7次学力向上対策」による子どもと教職員の力を1割アップ		学校教育課
	活動内容	3カ年(平成23年度～25年度)計画の最終年となる。大館市が最重点課題として取り組んでいるふるさとキャリア教育の充実。その成果として子どもたちが自分の進路を見つけたとき、その道に進めるような学力を保証できるように、共通実践事項である「学力向上を目指した学校間の積極的な連携」「活用する力を育てるための授業づくり」を推進していく。そして、その成果を踏まえ、課題を見据えて、第8次学力向上対策につなげていく。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	課題等	<p>小学校の学力は、NRT、県学習状況調査、全国学習状況調査とも、平均より高い状態で安定している。その学力が中学校になって低下する傾向が課題になっていたが、中学校区ごとに、課題の共有、小中の連携した授業改善の取組によって、今年度は県学習状況調査において、小中とも全学年が県平均を上回り、一定の成果をおさめている。</p> <p>諸調査に見られる高い学力を、これからの社会を生き抜く力に転化する。これまでの取組を「おおだて型学力」(社会人基礎力・社会人実践力)の新たな視点から捉え直し、強化すべき能力を各校、各関係機関が明確にしていくようにしたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	<p>全国学力テスト等の県全体を基準とした大館の指数は素晴らしい。特に中学校の実績が上がってきたことは喜ばしい。</p> <p>第8次学力向上施策に明記された「おおだて型学力」の各校職員への理解を深め、社会人基礎力、社会人実践力につながる学力を高めていくことを期待している。</p>	
	② ALT・外国語活動支援員による学校訪問		学校教育課
	活動内容	昨年度よりの新しい体勢(ALT5名、外国語支援員4名)を有効に活用し、さらなる小学校での外国語活動の充実、中学校での英語力、コミュニケーション能力の向上を図る。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	課題等	<p>ALT・外国語支援員を有効に活用し、外国語活動の充実、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。ニュージーランド訪問事前学習会や、イングリッシュキャンプではALTが中心になって児童生徒の支援にあたり、県からも高い評価を受けている。</p> <p>小学校外国語活動において、学級担任とALTが、外国語支援員との連携の仕方を検討していく必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	<p>ALT、外国語支援員の態勢が充実している。</p> <p>市の出版物に英語訳をつける等、市職員として、また英語教育に関わる専門職としての活動も検討してみしてほしい。</p> <p>市長の英語力を借りて、英語教員と英語で会話する機会を設ける等、英語力の向上を図ってみるのもよいのではないかと。</p>	

重点施策点検・評価表

2-3

推進目標	
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造
重点施策	
3	地域と一体となった学校づくりを推進する
	担当課(館)
①	ふるさとキャリア教育に基づいた特色ある学校経営の展開
	学校教育課
活動内容	各校ともふるさとキャリア教育の意義を理解し、経営に取り組んでいる。さらに充実発展させるために、すべての学校でふるさとキャリア教育の理念と方策を具体的に組み込んだ経営目標を設定させる。そして、教職員が共通理解して、地域に根ざしたくましく生きる子どもの育成に取り組む体勢を整える。さらに、その実現のために、ふるさとキャリア教育全体計画を作成させ、校内の体勢を整える。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) ふるさとキャリア教育の理念と方策を組み込んだ経営目標をつくったこと、ふるさとキャリア教育の全体計画を作成したことで、学校としてのふるさとキャリア教育への理解が一層深まり、様々な取り組みが行われ一層の充実発展がみられた。
課題等	ふるさとキャリア教育を大館市の資源・財産ととらえ、有効な活用の仕方を考えていきたい。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	大館市のふるさとキャリア教育は昨年度、多くの表彰を受け、全国にも広く紹介された。内容も充実しており、成果を上げ、市民にその意義が浸透してきている。このまま進めてほしい。
②	大館市版学校評価の充実
	学校教育課
活動内容	昨年度までの継続した取組によって、各校とも自校の課題を踏まえ、より具体的な目標を設定し進められるようになってきている。その意味で成熟してきているということが言える。しかし、それによって形骸化しないように、個人目標とより密接なつながりを持たせるなど、学校の実態に即した工夫を呼びかけていく。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) PDCAサイクルが有効に機能し、学校経営の充実に向けて大きな役割を果たしている。
課題等	個人目標の連動については、まだ学校差があり、この部分を改善することで職員の経営参画意識を高め、より充実した学校経営につなげていきたい。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	学校評価を教職員個人と連動させていくことは難しいだろうが、やるべき価値がある。工夫して取り組んでみてほしい。

重点施策点検・評価表

2-4

推進目標	
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造
重点施策	
4	実践的指導力を高める教職員研修を推進する 担当課(館)
	① 授業力の向上を目指した研修の充実 学校教育課
活動内容	各小・中学校に授業力の向上を目指した研修を推奨し、市教委においても授業研究に係る研修の機会を教職員に提供する。 また、他県や他市町村からの研修視察等を積極的に受け入れることで、自らの実践を振り返ると共に、他から学ぶ機会を広く設ける。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 教員の授業力は高まっており、それが学力の向上につながっている。学校訪問においても、子ども同士が共鳴する最高の域に達していると思われる授業がみられた。今年度は、22件99人の視察があり、学校訪問があった時には、その機会をとらえて、職員の授業力の向上につなげることができた。
課題等	来年度からは、更なる児童生徒の受け入れを計画しており、それらの機会を捉えて、更なる授業力の向上に努めたい。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	各校において素晴らしい授業実践が出てきており、県外からの視察が増えてきているのは素晴らしいことである。 来年度、沖縄県嘉手納町からの視察において、嘉手納町の教師、子どもたちからどのような感想が出てくるのか今から楽しみである。
	② 成長の連続性を大切にした幼保小中高大連携の推進 学校教育課
活動内容	満5歳児すてっぷ相談の結果をより生かすことができるよう、就学前の支援をさらに整える。特に、幼保と小学校間で共通理解を図り、子どもが学校生活へ適応できるよう、個々に応じることのできる指導力向上を目指す。 また、高校や職能短大等との連携において、職場体験に係る活動にとどまらず、教職員の授業力を高めるための取組も行い、児童生徒の自己実現を支える学力の向上を図る。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 幼保小連携については、子どもに関する情報「就学支援情報ファイル」により確実な引継ぎの体制ができるとともに、幼児通級指導教室での指導により、小学校生活への円滑な移行がなされている。課題となっていた中高連携は、市教育研究会の教科別研究会に高校教員が参加したり、高校の授業研究会に小中の教員が参加したりと授業力を高める取組が行われた。教職員研究実践発表会においては、幼保高大からの発表や参加が定着している。
課題等	校種や教科を超えた日常的な授業研究を一層推進していきたい。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	高校との連携はとても大切であり、それが着実に進んでいるのは素晴らしいことである。今後、進めていく中で様々な課題が出てくると思われるが、じっくりと取り組んでほしい。

重点施策点検・評価表

2-5

推進目標				
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造			
重点施策				
5	児童生徒の育成に資する教育環境の整備を推進する		担当課(館)	
	① 学校教育環境適正化の推進		学校教育課	
	活動内容	学校教育環境適正化検討委員会からの答申「大館市の学校統合及び学区適正化に関する将来構想」に基づき作成した「学校教育環境適正化計画(素案)」を基に、地域との話し合いを大切にしながら取り組んでいく。平成26年度の雪沢小学校の長木小学校への統合、平成27年度の北地区3中学校統合による北陽中学校の開校に向け、子どもたちがふるさとを広げ、切磋琢磨しながら、一人一人がより輝くことのできる環境となるよう、地域や学校と連携して具体的に進めていく。		
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)		
	課題等	雪沢小学校については、閉校の年、子どもたちは「雪沢小学校ここにあり」という活躍を見せ、地域の方の理解を得て、新長木小学校として、スタートを切ることができた。北陽中学校については、統合準備委員会、保護者会への継続的な説明で順調に進んでいる。学校教育環境適正化に向けての話し合いはもつことができなかった。		
	学識経験者等の意見	児童生徒数の推移をみると、将来的には小学校8校、中学校5校が適正な学校数と考えられる。次へのステップが必要になってくる。また、学区が広く複雑になることから、学区の再編成も考えていかなければならない。		
		取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度		
		雪沢小学校の閉校式は明るく、児童、保護者、地域の方々からも前向きな様子が感じられた。今後の児童生徒数の減少を踏まえると、この後の学校環境適正化に対しては相当に計画的な取組が必要であろう。		
		② 児童生徒の快適な学校生活を保障する施設・設備の点検と改善		学校教育課
	活動内容	子どもたちが安全で、安心して健康的な学校生活を送るとともに充実した学習を進めていけるよう、学校の環境整備に努める。 児童生徒が自己存在感、自己有用感をもち、校内が一人一人にとって成長を支えてくれる居場所となるよう、児童生徒の成長や活躍を称揚する校内掲示環境づくり等を支援する。		
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)			
課題等	小学校においては、以前より学習環境の整備が進んでいたが、中学校においても一人一人の生徒を大切に環境整備が充実してきている。また、小中において大館市が目指すふるさとキャリア教育を推進していこうとする掲示がみられた。			
学識経験者等の意見	学校への配当予算の確保は大変難しい問題である。市財政関係者が納得できる働きかけ等を工夫していくことが必要であろう。			
	学校環境整備に向けての配当予算は年々少なくなり、厳しい状況である。限界が近づいていると思われ、対応を考えていく必要がある。			
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度			